

Jリーグクラブにおけるホームスタジアム移転と観客動員の関係性

The relation between the transference of the home stadium and drawing power in J.League

1K03B020-4

一木俊介

指導教員 主査 木村和彦 先生 副査 間野義之 先生

【緒言】

初年度からJリーグに加盟しながらもジェフ千葉は長年観客動員に苦しんでいた。しかし、ホームスタジアム移転とともに観客動員が増加した。そこで筆者はホームスタジアム移転と観客動員の関係性について明らかにしようと考えた。

本研究ではまず、ホームスタジアム移転が観客動員に影響しているか明らかにする。そして次に観客動員に影響を与えると考えられるほかの要因と比べて、ホームスタジアム移転が本当に観客動員に影響を及ぼしているのかどうかを明らかにする。その結果として、今後、Jリーグチームがホームスタジアム移転をする意義やホームスタジアム移転をしていく上での課題などの方向性を検討する。

【方法】

ホームスタジアムを移転したJリーグクラブについて、ホームスタジアム移転の前後3年間のホームゲームデータを分析する。

まず、ホームスタジアム移転前後の平均観客数の差をt検定を用い分析する。その後、ホームスタジアム移転を行った各チームについて、観客動員を従属変数、ホームスタジアム移転を含む観客動員に影響を及ぼすと思われる要因を独立変数として数量化理論Ⅰ類を用いて分析した。それによって、ホームスタジアム移転と他の要因の観客動員に影響を及ぼす大きさの差を検定した。

観客動員に影響を及ぼす要因は以下の通り

- ・ スタジアム移転
- ・ 順位
- ・ 天候
- ・ 対戦相手
- ・ 節数（節目の試合）
- ・ キックオフ時間
- ・ 大会名（J1, J2）

【移転前後の平均観客数の差】

ヴィッセル神戸を除く9チームについて、優位確率が5%未満になり、平均値の差があることが認められた。つまり、ヴィッセル神戸を除く9チームでホームスタジアム移転により、観客数が増加したということが認められた

【ホームスタジアム移転と他の要因が及ぼす影響】

浦和レッズ、名古屋グランパスエイトを除く7チームで有意確率が5%未満となり有意な分析モデルが得られた。有意な分析モデルが得られた7チームのうち4チームで、ホームスタジアム移転が最も大きな影響を及ぼしている要因となった。特に大分トリニータではホームスタジアム移転のレンジが5、次に影響力の大きかった対戦相手のレンジが3.41と大きな差がついていた。また、残りの3チームでは対戦相手が最も影響を及ぼしている要因となった。全体の傾向として、スタジアム、対戦相手の2つの要素が観客動員に大きな影響を及ぼしているケースが多く次に順位が影響を及ぼしている傾向があった。

【考察】

スタジアムが観客動員に最も影響を及ぼしているチームはその後、観客数を維持していつているチームが多い。大分トリニータやアルビレックス新潟はJ1リーグ平均観客数を上回った観客動員を維持し続けている。それに対し、サンフレッチェ広島、東京ヴェルディ1969、コンサドーレ札幌など対戦相手がレンジの最も大きかったチームはその後観客数を減らしていつているケースが多い。これは、前者は、単に新しいスタジアムだというもの珍しさなどによって観客動員が伸びたのではないということではないか。これらのチームはアクセシビリティの向上や、新スタジアムのアメニティのよさから、潜在的な顧客を掘り起こしたのではないだろうか。

【今後のホームスタジアム移転について】

本研究に取り上げた事例はビッグイベントのために建設されたスタジアムがその多くを占めている。つまり、今後、この10年間のようにホームスタジアムの移転が行われるケースは少なくなることが考えられる。また、スタジアム改修にかかる費用も決して安くはない。つまり、今後Jリーグクラブがホームスタジアムを移転や、スタジアムを改修しようと考えたとき、クラブ側は自治体や企業側に明確なメリットを提示していかなければいなくなるだろう。観客動員はその指標の1つとなるものである。ただホームスタジアムを移転しただけではその後観客動員は落ちてしまうかもしれない。観客動員を維持やさらなる増加をしていくためのプランを提示し、スタジアム移転を行っていかなければならない。